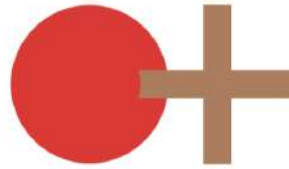


[View this email in your browser](#)

Tomoko
Mukaiyama
Foundation x.



オランダでのKUMANO



© Design by Simo Tse

[KUMANO](#) は昨秋新宮市と名古屋で日本公演を終えたあと、夏の時間を使って大幅に改訂し、今月からオランダツアーが始まりました。

音楽、映像、インスタレーション、ナレーションの複数の分野を横断する作品KUMANOは数年にわたるリサーチ、制作期間を経て、卓越した才能を持つチームメンバーとの協働で生まれました。クリエイションの過程はいまの混乱した時代にあって、自分の過去を振り返りながら、現在、未来について考える際の指針となりました。



熊野は本州の南西にある、日本人の心の浄土（ふるさと）です。数千年の長きにわたり、貴人も平民も、へだてなくこの地を訪れ、神々を敬い、祈りを捧げ、英気を得てきました。

わたしはその熊野の地に生まれ、育ちました。ですから熊野は、なによりもわたしにとって故郷（ふるさと）であり、依代（よりしろ）です。わたしが熊野を訪れるのは、巡礼者としてではなく、懐かしい人たちと再会し、蘇る記憶に浸るためなのです。

KUMANOのパフォーマンスは、その意味でとてもパーソナルなものです。子供頃の時間にもどって、家の思ひ出、深い森の手触りと匂い、アンドレ・マルローが絶賛した荘厳な那智の滝、大海へと勢いよく流れる早瀬・・・、子供ながら畏怖を持って接していた風景をピアノ音楽と映像と写真、そして今回初めて言葉を使ったパフォーマンスで表現されています。

このパフォーマンスをヨーロッパの人たちと必ず共有できいる、と確信したのは、熊野が寛容と包容力を思った土地だからでした。熊野は古代からあらゆる人々（弱者、すなわち女、子供、癩病者、老人、乳飲み子なども含む）をありのまま受け入れてきたのです。



イリ・キリアンとネザーランドダンスシアター (NDT)



今週末より "[Tar and Feathers](#) (タールと羽)" がオランダで再演されます。舞台上に据え付けた、サルヴァドール・ダリの絵を想像させる、あの脚の長いピアノを覚えておられるでしょうか。

"Tar and Feathers" は、[イリ・キリアン](#)氏が2006年に発表したダンス作品です。キリアンについてはあらためて申し上げるまでもありませんが、「20世紀最後のコリオグラファー」とも言われ、オランダ、ヨーロッパのみならず、世界でもっとも尊敬され人気の高い振付け師・演出家です。キリアンは[ネザランド・ダンス・シアター \(NDT\)](#) を半世紀にわたって率いてきましたが、わたしは2006年、彼に招かれてこの "Tar and Feathers" の制作の諸段階から、音楽家とピアニストという役割で関わることができ、彼の妥協を許さない厳しいクリエイターとしてのそしてユーモアあふれる素晴らしい人間性に触れる幸運な機会を得ました。

タールに塗られ羽を纏われた女性は、自由を抑圧されたもののメタフォールで、地面を引きずり回されるほどの抑圧とそこから空高く飛び立ちたいと切に願う強い思いの暗喩です。

また物語の背景には、常にどこかに生贓を探し求める大衆の陰湿な心理の矛盾も描かれているのでしょうか。

秋には20数回のオランダ国内、そして来春はロンドンを巡ります。

[オランダツアー](#)

9月22-24, 27, 28日、10月4-6日、11月15, 16, 18-20, 23, 25, 26, 30日、12月2, 3日



向井山朋子
Tomoko Mukaiyama



Tomoko Mukaiyama Foundation
tomoko.nl info@tomoko.nl

Multus
multus.tomoko.nl japan@tomoko.nl

Want to change how you receive these emails?
You can [update your preferences](#) or [unsubscribe from this list](#)

